

丸川松隱

【まるかわしょういん】

漢学者。名は茂延、字は千秋、松隱はその号である。浅口郡西阿知村（現在倉敷市西阿知町）に生まれる。寛政元年（1789）大坂の中井竹山の門に入る。老中松平定信が竹山を介して召そうとしたが辞退する。寛政6年（1794）新見藩主関長誠に招かれて藩学思誠館の督学教授となり、学制を改革し、学規を定めた。享和3年（1803）藩政に参与し、「型典」を著して藩政を改革した。門下生に山田方谷がいる。

- 幕末辞典 -